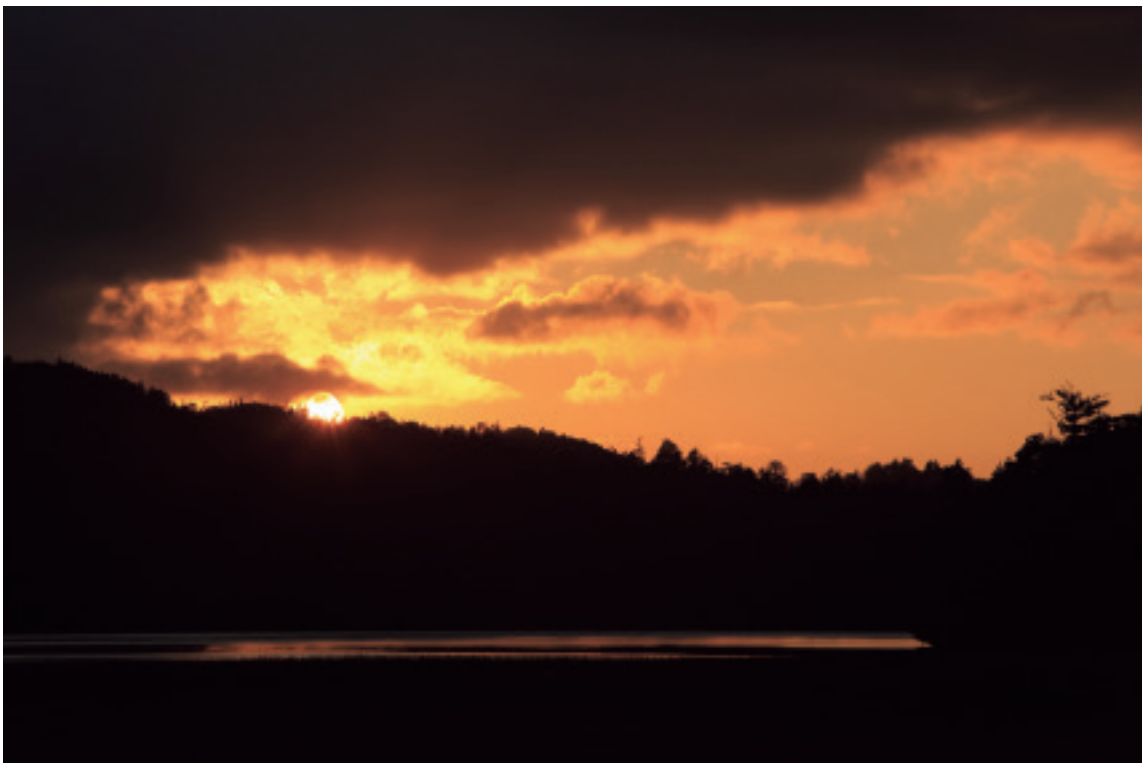
群馬自治

平成26年
No.342
10月号

群馬県町村会・群馬県町村議会議長会／発行・編集人　梅村　透／〒371-0846　前橋市元総社町335-8　☎027-290-1352



尾瀬沼夕景

新井幸人氏の尾瀬シリーズ▶ 54

特集

「市町村消滅論」を乗り越えるために

大江　正章

町村トップ通信

甘楽町／茂原荘一町長

おすすめの一冊⑥1　「絹の国拓く」

今年六月、五年ぶりに北軽井沢マラソンが復活しました。大会コンセプトは「おもてなし」、キャッチフレーズは「浅間高原のさわやかな風になろう！」と掲げ、大会開催の目的を明確にすることで、受け入れ体制の再整備を図り、これまでの観光協会単独から官民協働による実行委員会主催に改め、大会を開催しました。

ここ北軽井沢は、北海道と気候や風土が類似していて、開拓入植当時から酪農家が多く、現在も三千五百頭余の乳牛が飼育されている日本でも有数の酪農地帯です。

初夏の標高千百㍍の爽やかな浅間高原での大会は好評で、中止となった平成二十一年の大会では応募者数が三千八百名を上回るまでになっていました。

家畜伝染病「口蹄疫」が宮崎県で発生、酪農地帯がコースとなっている当大会は、防疫上の観点から、やむを得ず中止の判断を下しました。この間ランナーの皆様からの熱い思いを受け、地元観光協会も再開の方向性を模索、町当局や地元と検討協議を重ね、コースの見直しや役割分担、委託業者の決定など、短期間の調整に難航しながらも開催にこぎつけました。参加者も目標の千二百名には届きませんでしたが、千百十二名のエントリーをいただくことができました。

復活！北軽井沢マラソン

当日は悪天候により、自慢の景色を楽しんでいただくことはできませんでしたが、産地ならではの高原野菜や新鮮牛乳のおもてなしは好評で、ブレないコンセプトに向かって皆で取り組んだ結果だと思います。

各地では趣向を凝らしたさまざまな取り組みが紹介されていますが、個々のニーズを捉え、更なる一手を打つことが発展的なまちづくりに繋がることだと思います。

今回復活したマラソンもまさにその通りで、新たな挑戦はこれからも続きます。

（長野原町　萩原　喜隆）

本誌は再生紙を使用しています。

町村トップ通信

三十一年目の姉妹都市交流

甘楽町長　茂原荘一

三十一年目の姉妹都市交流

本年六月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され、県内各市町村において様々な取り組みが行われています。

フランスと富岡製糸場が深い関わりがあることは、皆さんご存知のとおりですが、絹産業と関わりの深い国にイタリアがあります。

そのイタリアの中央部に位置するトスカーナ州に甘楽町の姉妹都市チェルタルド市があります。

この姉妹都市協定が締結されたのは、一九八三年十月のことです。甘楽町とチェルタルド市は、距離にして約一〇〇〇〇キロ離れ、約二十時間かかります。

こんな遠く、言葉も文化も異なる両市町が、一粒の麦の精神のもと、使節団や青少年の相互派遣の人的交流、様々な文化交流やワインの輸入販売などの経済交流を行なってきました。地道ではありますが、着実に交流を進め、三十一年目を迎えた今日では、一粒の麦から多くの実を結ぶことができました。

派遣した中学生は二百六十四人

今年の夏は、十五次となる中学生研修団をチェルタルド市に派遣し、ホームステイにより異文化を体感してもらいました。今回で派遣した中学生は述べ二百六十四人となります。

情報化が進歩した今日では、知識として様々なものを持つことができます。しかし、実際に見て、聞いて、体験して得られるものはそれとは別のものだと思います。

異国の家庭の中でともに生活し得るものは、小さなパソコンなどの画面では得られません。

そして、心の温もりや絆を感じられる交流は、国際感覚やグローバルな考え方と同時に、中学生たちの将来に世界平和という意識を持たせてくれると確信しています。

第15次中学生研修団（チェルタルド市にて）

ピザ研修

今夏の中学生研修団と一緒に一人の若者が帰国しました。チェルタルドにあるピザ店で三ヶ月のピザ作りの研修を修了した「道の駅甘楽」の職員です。

「道の駅甘楽」は、今年三月にリニューアルオープンしました。従来からのチェルタルド市直輸入のイタリアワインやオリーブオイルなどに加え、ピザ窯を設置し地粉ピザの販売も開始しました。ピザ窯のタイルは、チェルタルドで製作されたものです。

さらに「道の駅甘楽」の魅力をアップさせようと実施したのが、今回のチェルタルド市でのピザ研修です。

チェルタルドの味

派遣した職員は、中学生の時に第十次の中学生研修団の団員として、チェルタルドに滞在した経験を持ちます。中学生の時の経験は、今回のピザ研修でも無意識の中で生かされていたことでしょう。

今回のピザ研修は、チェルタルド市側の絶大なる協力のもと実施されましたが、三十年以上の交流の積み重ねが成せる事業でした。

多くの皆さんに本場イタリアのピザをご賞味いただきたいと思います。

道の駅甘楽ピザ窯の前で、チェルタルド市長と茂原町長

「市町村消滅論」を乗り越えるために

ジャーナリスト　大 江 正 章

エスカレートする表現

七月十三日に東京・文京区で行われた中山間地域フォーラムのシンポジウムの広い会場は、聴衆があふれていた。ほとんどの参加者が報告者の講演に聞き入っている。

シンポジウムのタイトルは「はじまった田園回帰―『市町村消滅論』を批判する―」。五月に増田寛也・元総務大臣とそのグループ（日本創成会議・人口減少問題検討分科会）が発表したレポート（『中央公論』二〇一四年六月号、以下「増田レポート」）で提起された「消滅可能性都市」「消滅する市町村」に対する最初の本格的反論の場である。会場の熱気は、地方の市町村と人びとに与えた衝撃の大きさを物語っていた。

増田レポートのタイトルは「提言ストップ『人口急減社会』」で、「消滅可能性都市八九六」と題する表が掲げられている。その扉ページは「消滅する市町村五二三―壊死する地方都市―」だ。さらに、八月下旬に『地方消滅』というタイトルの書籍も発行された（増田寛也編著、中公新書）。消滅可能性都市→消滅する市町村→地方消滅と、確たる根拠もなしに表現がどんどんエスカレートし、ついには地方全体が消滅するかの推論が流布される。

私は人口減少問題という危機に乗じて「農山村たたみ」（小田切徳美氏）を目論むことは許されないと考え、六月の『町村週報』に書いた小論のタイトルを「農村版ショック・ドクトリンを許すな」とした。だが、もはや「ショック」にとどまらない。農山村つぶしの「毒薬」と言うべきだろう。

増田レポートのベースとなっているのは、二〇一〇年の国勢調査をもとにした日本の地域別将来推計人口である。そして、二〇一〇～一五年の人口移動が変わらない場合の、市町村ごとの二〇四〇年の若年女性（二十～三十九歳）人口と総人口、前者の減少率が示されている。その結果、若年女性人口が半分以下に減少する自治体を「消滅可能性都市」とした。その数が八百九十六で、秋田県を筆頭に五県は八割以上、二十四道県は過半数が該当するという。また、そのうち五百二十三自治体は人口一万人以下になり、「消滅可能性が高いと言わざるを得ない」と述べている。この本文の表現が、扉ページでは意図的に「消滅する」に変えられているのだ。

こうした人口の急減、すなわち少子化をストップさせる基本方策は、「若者が自らの希望に基づき結婚し、子どもを産み、育てることができるような社会をつくる」ことであるという。そこで、国民が希望する合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子どもの平均数）を一・八と推計し、その実現を目標とする。また、大都市圏への若者の流出を抑えるために、「選択と集中」を徹底させて、「若者に魅力のある地域拠点都市」を中核とした「新たな集積構造」を構築するという。

一方、『地方消滅』の内容に目新しさはない。昨年十二月から発表してきた文章、提言、対談などをまとめたにすぎない。唯一の書き下ろしの章「地域が活きる六モデル」で紹介されているのは産業誘致型やベッドタウン型などで、筆者（増田氏ではない）自身が「企業経営に大きく左右されるリスクがある」「高齢化が一気に進むことへのリスクも懸念される」と告白している。産業開発型のモデルは、きわめて特殊な農業形態の大潟村（秋田県）などであり、とても普遍化はできない。しかも、本書全体をとおして、「若者に魅力のある地方中核都市」とは何か、具体化されていない。

定住者が増える中山間地の自治体

一連のレポートと書籍には疑問がつきない。そもそも、「若年女性半減＝市町村の消滅」というのは乱暴な推計だ。そして、人口移動に関しては、東日本大震災以降に顕著になった若者の農山村移住志向・田園回帰をまったく考慮していない。たとえば、若年女性人口減少率二十位の神山町（徳島県）にはIT系企業が相次いでサテライトオフィスを開き、若者たちが充実した仕事と暮らしを営んでいる。埼玉県の二位小川町や福井県のトップ池田町は有機農業のまちづくりで全国的に知られ、移住者が多い。

「消滅可能性都市」が八割以上とされた島根県では、山間部や離島の複数の町村で最近、人口が社会増となっている（海士（あま）町、邑南（おおなん）町、飯南（いいなん）町、美郷（みさと）町）。島根県中山間地域研究センターが行った公民館区・小学校区単位の調査では、全体の三三パーセントで四歳以下の子どもの数が増えており、とくに山間部で目立つ。これは若い移住者やUターン者の増加を意味する。

邑南町（八月現在、人口一万一千五百五十四人、高齢化率四一・七％）では、二〇一〇年から一四年で、若年女性人口が十三人（八百一人→八百十四人）増えている。対前年人口減少数も、二〇〇七年の二百三十六人から十三年には百三十八人にまで減った。この町は、「女性と子どもが輝くまちづくり」「A級グルメのまちづくり」で知られる。町のアクションプランでは「五年間で定住人口二百人増」をかかげ、実際に、三年目の二〇一三年までに百二十八人増えている。石橋良治町長は、私にこう語った。

「私は女性と子どもの貧困が最大の課題だと思っています。女性を大事にしなければ、少子化問題は解決しません。出産と子育ての環境を整えて、女性にやさしいまちをつくろうと考え、不在だった産婦人科医を招き、妊婦検診も十六回まで無料にしました。このころから、U・Iターンが少しずつ増えてきたのです。直近五年平均の合計特殊出生率は二・二〇でした」

「地方で女性が働く場と言えば、これまでは福祉・介護関連でした。でも、高齢化は頭打ちになっていく。食にかかわることは多いし、広がりがあります。小さな仕事でいい。それがいくつもあることが大切。そして、仕事をとおした社会貢献を忘れてはいけません」

「消滅する市町村」トップの移住促進策

「消滅する市町村」のトップに名指しされたのは、高齢化率日本一、年少人口率日本最低の南牧村だ。増田レポートによれば、二〇一〇年に九十九人だった若年女性人口は、四〇年にはわずか十人になるという。しかし、六月末に村を訪ねた私が見たのは、民間主体で行政がバックアップして行われている地道な移住促進政策だった。

南牧村では「南牧山村ぐらし支援協議会」（以下「協議会」）が二〇一〇年十月に発足した。中心は自営業者だ。彼らはほぼ一貫して村外に出ず、家業を継いだ。村に深く根ざして暮らしている。役場職員もメンバーになり、事務局を担い、若干の委託金を出して支える。

協議会のおもな活動は、①村内の空き家の全戸調査、②空き家バンク（ホームページ）の開設と移住希望者への対応、③村内外への広報・宣伝などである。村内すべての空き家を調査した結果、三百六十八軒あることが確認された。これは全戸数の二一パーセントにあたる。このうち、家主の承諾が得られれば「即入居可」「多少の補修で入居可」な物件が約百軒ずつあった。こうした情報を村のホームページで公開。その結果、二〇一一年間からの三年間で十四世帯二十六人が移住してきた。うち十四人は四十代以下である。移住者たちは口をそろえて、村の自然や風景を讃える。

「山や川の様子も家並みも、時間が止まったようでした。東京から近いのに、びっくりするくらい昔のままの姿が残っている」（四十代、木工職人）

「景色に一目惚れです。家の裏には段々畑があり、石垣が残っている。ここで農作業できる、歴史のなかに自分が入り込めると思ったら、うれしくって」（三十代、農業）

「都会にしかないものは何も

ない。でも、田舎にしかないものはたくさんある。夏は毎週川遊びし、魚を獲ってバーベキューしてます」（二十代、団体職員）

彼らは決して、超少数派ではない。多くの若者が、「集落はあたたかい」「ほっておかれないから、うれしい」と語る。こうした若者が魅力を感じるのは、都会の二番煎じの地域拠点都市では決してない。

「それはわかるが、彼らが村で暮らしていくための仕事がない」と、よく言われる。だが、本当にそうだろうか。南牧村に即して言えば、自然条件に則った小さな農業、空き家を改装した地産地消の農家レストランや体験型民宿、伝統ある山羊の生乳やチーズ作り、富岡に近い条件を活かしたかつての主要産業・養蚕の現代的復活、石垣の段々畑を利用した農業体験用の貸し農園……。いずれも小さな雇用にすぎないが、移住したいと考える若年層にとっては企業誘致よりずっとリアリティがある。

増田レポートに立ち返ると、一年に三人の若年女性が増えれば、三十年間で九十人になる。これらを組み合わせていけば、決して不可能ではないだろう（断っておくが、人口増自体が目的ではない。魅力ある地域に移住者や交流人口が増えるのだ）。また、島根県中山間地域研究センターの人口予測によると、人口千人の地区に毎年二組（十人）、三十代前半の子連れ夫婦と二十代前半の男女が定住すると、高齢化率は下がり始め、小・中学生の数は長期的に安定するという。小規模自治体であるほど、人口減少率が緩和される可能性は高いのだ。

地方が本当に元気になるために

増田レポートの背景には、明確な政府の政策意図がある。日本創成会議のメンバーには、二人の有力な元・事務次官が含まれている。経済成長率にこだわり、「世界でもっとも企業が活動しやすい国」をめざす政府にとっては、人口と資本の都市への集中が望ましい。地産地消や帰農、ましてや脱成長志向は目障りなのだろう。

増田氏は岩手県知事時代、市民活動や自然エネルギーを重視し、以前の文章では「地方が自立した多様性の下で持続可能性を有する社会の実現を目指すことが重要」と述べていた。ところが、現在は「地方元気戦略」を掲げながら、「選択と集中を徹底し、地方中核拠点都市に投資と施策を集中する」という。「一極集中への歯止め」どころか、農山村切り捨てを明示しているのだ。

今後、アベノミクスのもとで、国家戦略特区と東京オリンピック関連の建設投資が相俟って、東京圏への一極集中が激化していくだろう。その路線に乗るのか、自然や環境を活かし、若者の志向変化に対応した個性ある脱成長型地域づくりを進めるのか、いま選択のときである。

プロフィール

ジャーナリスト・コモンズ代表　**大　江　正　章**（おおえ・ただあき）

1957年神奈川県生まれ。
1980年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、学陽書房入社。編集者として、自治・環境・食・農などの分野を手がける。1995年退社。
1996年コモンズ創設。
現在　アジア太平洋資料センター代表理事、全国有機農業推進協議会理事、コミュニティスクールまちデザイン理事などを務める。

著書＝『農業という仕事―食と環境を守る』（岩波ジュニア新書、2001年）
『地域の力―食・農・まちづくり』（岩波新書、2008年）
共著＝『公共を支える民―市民主権の地方自治』（コモンズ、2001年）
『経済効果を生み出す環境まちづくり』（ぎょうせい、2010年）
『新しい公共と自治の現場』（コモンズ、2011年）
『政治の発見⑦守る―境界線とセキュリティの政治学』（風行社、2011年）
『放射能に克つ農の営み―ふくしまから希望の復興へ』（コモンズ、2012年）など

会長に田村利男氏が就任

議長会臨時総会を開催

県町村議会議長会は、去る八月五日前橋市・群馬県市町村会館において臨時総会を開催した。

田村会長

柳沢副会長

平成二十五年度一般会計決算を認定した後、髙橋正氏（前榛東村議会議長）の退任に伴い欠員となっていた会長に、田村利男・神流町議会議長を選出した。

また、この会長就任に伴い、副会長が一名欠員となったので、副会長（第二順位）に柳沢浩一・玉村町議会議長を選出（任期はいずれも、平成二十七年六月一日までの残任期間）し、藤井副会長（昭和村議会議長）のあいさつで閉会した。

当選議長の紹介

北群馬郡榛東村　金井　佐則
七月八日　当選

議長会役員の異動

髙橋　正（榛東村）
七月八日　会長退任

近藤　保（吉岡町）
七月八日　理事就任

田村　利男（神流町）
八月五日　会長就任

柳沢　浩一（玉村町）
八月五日　副会長就任

初当選議員を含む22人が議会制度と運営を学ぶ

新議員研修会開催

県町村議会議長会は、六月三十日（月）、前橋市・群馬県市町村会館において、この一年間の町村議会議員初当選者を対象とした新議員研修会を開催した。

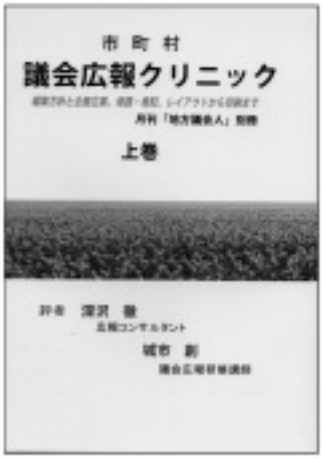
この研修会は、毎年この時期に開催しており、本年は十二人の新議員及び十人の議会事務局職員が参加し、野村講師から本会議や委員会の制度や運営など、議会議員にとって必要な知識を学んだ。

研　修　科　目

「地方議会の制度と運営について」

元・全国都道府県議会議長会
議事調査部長　**野村　稔**氏

㈱中央文化社 発行書籍案内



市町村 議会広報クリニック

上・下巻

評者　深沢 徹（広報コンサルタント）／城市 創（議会広報研修講師）

【上巻】地方議会人2010年２月号～2011年７月号分掲載
【下巻】地方議会人2011年８月号～2012年12月号分掲載

Ａ５判 240頁 本体価格　各2,800円（税別）＋送料
上下巻セット 本体価格　5,000円（税別）＋送料

市町村議会広報の 基本と技術

深沢 徹（広報コンサルタント）著

議会広報紙作成に必要な編集方針、企画の立て方、記事の書き方・用語・表記についての注意点、レイアウト、印刷にいたるまでの技術について具体的に解説

Ａ５判 260頁 定価　2,500円（税込）＋送料

議会人ハンドＢＯＯＫシリーズ

市町村議員のための わかりやすい地方債

前 総務省自治財政局地方債課長　満田 誉 著

Ａ５判 ９６頁 本体価格７００円（税別）＋送料

地方債における資金の借入れ・返済の方法から協議制度や計画といった制度面まで要点をおさえて解説！

市町村議員のための わかりやすい地方交付税

Ａ５判 ９６頁 本体価格７００円（税別）＋送料

地方交付税の概要や基本的な仕組み、課題などについて、わかりやすく、できるだけ平易に解説！

市町村議員のための わかりやすい地方税

Ａ５判 １００頁 本体価格７００円（税別）＋送料

地方税の仕組みや課題などについて地方議会が果たすべき役割との関係を含め、できるだけ平易に解説！

●ご注文・お問い合わせは

直接 TEL 03-3264-2520
又は FAX 03-3264-2867

〒102-0082　東京都千代田区一番町25番地
全国町村議員会館３階

株式会社 中央文化社
URL http://www2.odn.ne.jp/chuoubunkasha/

全国町村議会議員 団体医療保険

新・団体医療保険（医療保険基本特約・疾病保険特約セット団体総合保険）

保険期間 平成27年1月1日午後4時から1年間

「病気」を補償し、ご安心をお届けする制度です。

安心の団体医療保険 5つの特長

1 「病気」を補償します！

- 病気による入院・手術を補償します。三大疾病（がん・急性心筋こうそく・脳卒中）となった場合の補償もセットできます。
- 病気による入院は、日帰り入院から補償します(注1)。
  また、1回の入院につき120日限度、通算1,000日まで補償します。

2 団体割引30%の、割安な保険料です！

ご加入年齢 満60歳～満64歳の場合（A型にご加入いただいた場合）

疾病入院保険金 1日につき 5,000円

23,070円（保険期間1年、年払、団体割引30%適用）

3 議員・退職議員の皆さまのための制度です！

- 議会議員を退職後も、継続して加入できます。
- 議員の皆さまの配偶者も加入できます。
- 満79歳（保険始期日時点の満年齢）まで加入できます。

4 お手続きは簡単です！

- ご加入の際、医師の診査は不要です。簡単な告知で加入できます(注2)。
- 保険期間は1年間です。以降1年ごとに自動継続となりますので、お手間がかかりません(注3)。

5 無料の健康・介護相談サービス（損保ジャパン日本興亜・アシスタントダイヤル）をご利用いただけます！

(注1) 日帰り入院とは、日帰り手術のため1日だけ入院と同じような形で病室を使用した場合などのことをいい、「入院料」の支払いの有無で判断します。

(注2) 加入申込書および被保険者健康告知書の内容により、お引き受けをお断りしたり、お引き受けの条件を制限させていただくことがあります。

(注3) 本制度は保険期間の中途でのご加入はできません。

※このポスターは概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン社本支店までお問い合わせください。

【保険契約者】
全国町村議会議員互助会

【取扱代理店】
株式会社 まちむら
〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 全国町村議員会館3階
TEL 03-3264-6830 FAX 03-3264-8308

【引受保険会社】
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
団体・公務開発部 第三課
〒100-8985 東京都千代田区霞が関3-7-3
TEL 03-3593-5456 FAX 03-3593-6753

SJNK14-05713 2014.7.29

平成25年度群馬県市町村総合事務組合　一般会計決算概要

８月29日(金)に開催された群馬県市町村総合事務組合議会平成26年第２回臨時会において、平成25年度一般会計決算が認定されました。

	款・項	収入済額（円）
歳入	分担金及び負担金	6,072,832,238
	消防共済基金支出金	226,941,181
	県支出金	0
	財産収入	167,885,221
	寄附金	0
	繰入金	1,400,000,000
	繰越金	35,050,724
	諸収入	41,805,035
	組合債	0
	歳　入　合　計	7,944,514,399

	款・項	支出済額（円）
歳出	議会費	150,390
	総務費	70,148,372
	事業費	6,772,000,185
	退職手当給付費	6,533,945,984
	消防公務災害補償等費	227,123,947
	消防賞じゅつ金給付費	0
	自然災害救助費	5,000,000
	非常勤職員公務災害補償費	5,930,254
	学校医等公務災害補償費	0
	消防共済基金掛金	277,867,838
	公債費	0
	積立金	167,882,000
	予備費	0
	歳　出　合　計	7,288,048,785

歳入歳出差引残額	656,465,614円
財政調整基金等繰入額	620,828,000円
うち退職手当基金繰入額	614,253,000円
消防補償等基金繰入額	2,627,000円
消防賞じゅつ金基金繰入額	2,107,000円
自然災害救助基金繰入額	0円
非常勤職員公務災害補償基金繰入額	1,841,000円
平成26年度繰越額	35,637,614円

群馬県町村会のホームページ掲載情報

http://www.gck.gr.jp/

県内の「町村長の主張」を中心に、全国町村会の各種要望、各種研修日程等を掲載しています。

《掲載情報》

- 道州制推進基本法案に関する全国町村会長の全国会議員への書簡（全国町村会ＨＰ）
- 本会定期総会における宣言及び決議
- 過去の宣言及び決議
- 災害共済事業の案内
- 平成26年度本会主催の研修日程
- 平成26年度町村職員研修ガイド
- 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)研修一覧
- 市町村国際文化研修所（国際文化アカデミー）研修一覧
- 自治大学校研修計画
- 群馬自治掲載コラム
- おすすめの一冊
- 個人情報等保護関係
- 関係団体へのリンク

おすすめの一冊

絹の国拓く　世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」

上毛新聞社事業局出版部

笊、竹箒、熊手などを作る竹細工の職人であった私の父は、養蚕台（竹で編んだ畳一畳ほどの板状のもの（別掲写真上部の竹製品））も作っていた。この台の上に桑の葉がたくさんついた枝を並べ、そこで養蚕農家は蚕を飼っていた。しかし、竹製品の需要も時代の流れとともに養蚕の衰退と時を合わせるかのように減少していった。

群馬県の郷土かるたに「上毛かるた」がある。その「に」は『日本で最初の富岡製糸』。今年六月、カタールで開かれた国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会で、群馬県の「富岡製糸場」と絹産業遺産の「田島弥平旧宅」、「高山社跡」及び「荒船風穴」の四資産が世界文化遺産に登録された。

今回ご紹介する本は、「絹の国拓く　世界遺産『富岡製糸場と絹産業遺産群』」（上毛新聞社事業局出版部）。この本は、群馬県の地元紙である上毛新聞社が、平成二十六年一月六日から四月二十七日まで、全六十五回連載した記事「絹の国拓く」をまとめたもので、日本が近代国家を目指す中、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が果たした役割を検証し、その価値を一人でも多くの人に伝えるための一冊である。

六十五回にわたる連載記事をもとに編集したこの本は、記事ごとに関連するカラー刷りの写真が掲載され、記事に登場する人物や用語解説もあり、コンパクトで読みやすい構成になっている。

富岡製糸場が近代化遺産として注目されるきっかけや世界遺産登録までの経緯をはじめ、富岡製糸場のことだけでなく、それまで春に一度しかできなかった養蚕を夏も秋も可能にした、風穴を利用した蚕種貯蔵、屋根に換気用の櫓（やぐら）を付け風通しを良くした近代養蚕農家建築の発明、原料となる蚕の育て方の研究、貴重な労働力だった工女の育成、最新設備の導入や開発等、試行錯誤を重ねながらたゆまぬ努力を続け、近代日本の発展を支えた人々の様子が描かれている。

また、富岡製糸場が操業して、十年足らずで廃業の危機が訪れる。熟練工女が育たず、それがそのまま生糸の品質に反映されてしまったのが原因で、この閉場の危機を政府に意見書を送り救ったのが、来年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公の文の夫である、群馬県の名県令として殖産興業・教育に尽力し、群馬の近代化に寄与した初代県令（知事）楫取素彦（かとりもとひこ）であったという。

富岡製糸場は社会科の教科書に必ず出てくるので、名前を記憶している方は多いと思う。しかし、写真ではなく絵が掲載されていることが多いため、富岡製糸場の建物は、既になくなっていると思っていたのではないだろうか。世界文化遺産登録を機に、メディアでも大きくクローズアップされ、建物が現存していることが認知されて、見学のための来場者が後を絶たない。

この世界文化遺産を見る前に読むか、見てから読むか。資源のない日本が幕末の開港後に、なぜ急速に発展し得たかを理解することができるのではないだろうか。（M）

養蚕台

これからの主な行事予定

群馬県町村会関係	日　程	会　場
関東町村会トップマネジメントセミナー	10月8日(水)～9日(木)	東京都　全国町村会館
町村総務、財政及び企画担当課長研修会	11月5日(水)	群馬県市町村会館　501研修室
町村長行政視察	11月6日(木)～7日(金)	長野県　飯島町・下條村
平成27年度法令外負担金等規制委員会	11月14日(金)	群馬県市町村会館　特別会議室
理事会	11月14日(金)	群馬県市町村会館　町村会役員室
県選出国会議員との懇談会	11月18日(火)	東京都　グランドアーク半蔵門
町村長研修会	11月19日(水)	東京都　グランドアーク半蔵門
全国町村長大会	11月19日(水)	東京都　NHKホール
定期総会	平成27年2月10日(火)	群馬県市町村会館　大会議室

群馬県町村議会議長会関係	日　程	会　場
監査委員全国研修会	10月2日(木)～3日(金)	東京都　メルパルクホール
役員会	10月20日(月)～21日(火)	渋川市
議員研修会	10月29日(水)	吉岡町　吉岡町文化センター
町村議会議長全国大会	11月12日(水)	東京都　NHKホール
議会広報研修会	11月27日(木)	群馬県市町村会館